



## コロナ禍の資金繰り支援は一巡

— 9月の信用金庫の企業向け新規貸出実行額は前年同月比マイナスに —

井上 有弘

### ポイント

- 2020年9月末の信用金庫の貸出金・預金残高(速報)について、貸出先別・預金者別の動向を確認すると、貸出金については、中小企業向け運転資金の前年同月比伸び率が22.4%増となった。
- 預金については、資金繰り資金や持続化給付金など各種給付金の預金口座での滞留から、法人預金が同21.4%増となった。
- 9月の企業向け新規貸出実行額は、20年2月以来7か月ぶりに前年同月比でマイナスとなっており、新規貸出実行額は落ち着いてきている。資金需要判断D.I.の今後3か月の見通しも感染拡大前の水準近くにまで低下しており、現時点で多くの信用金庫の資金繰り支援は一巡したといえる。

### 1. 企業向け運転資金は22.4%増

2020年9月末の全国254信用金庫の貸出金・預金残高(速報)の合計について、貸出先別・預金者別の動向を確認する。

貸出金については、実質無利子・無担保の制度融資の活用などで急増していた中小企業向け資金繰り資金(運転資金)の前年同月比伸び率が、9月末には22.4%増となった(図表1、2)。高い伸び率が続けているが、伸び率の上昇幅は小さくなっている。

個人向け貸出は、外出自粛に伴う借入需要の減少や1人一律10万円の特別定額給付金によ

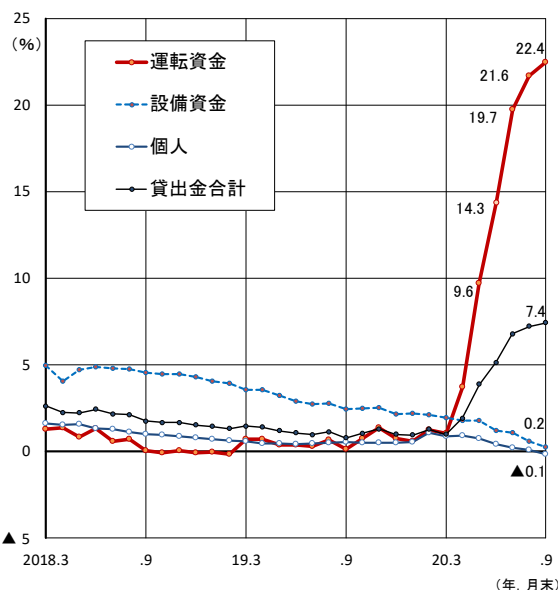
る返済などによって消費性ローンが急減したことから、同0.1%減と12年4月以来の減少に転じた。

### 2. 法人預金は21.4%増

預金については、前述の資金繰り資金や持続化給付金など各種給付金の預金口座での滞留から、法人預金が9月末に同21.4%増となった(図表3、4)。

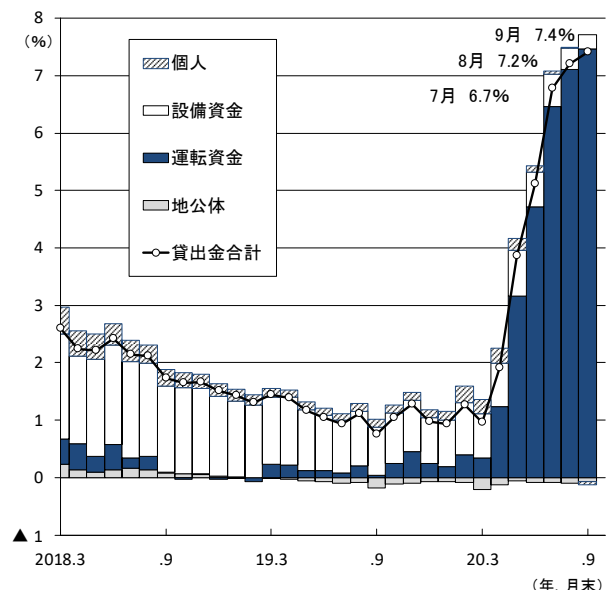
個人預金は、特別定額給付金のほか、個人事業主の預金口座に各種給付金や資金繰り資金が滞留したため、同3.4%増となった。

(図表1) 貸出先別の伸び率(前年同月比)



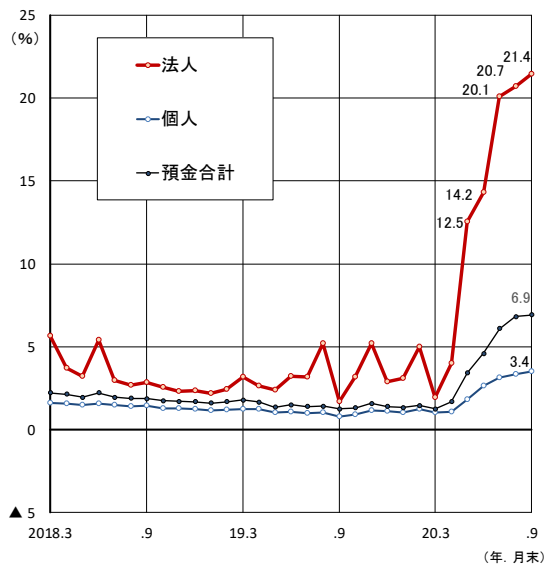
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表2) 貸出先別の寄与度(前年同月比)



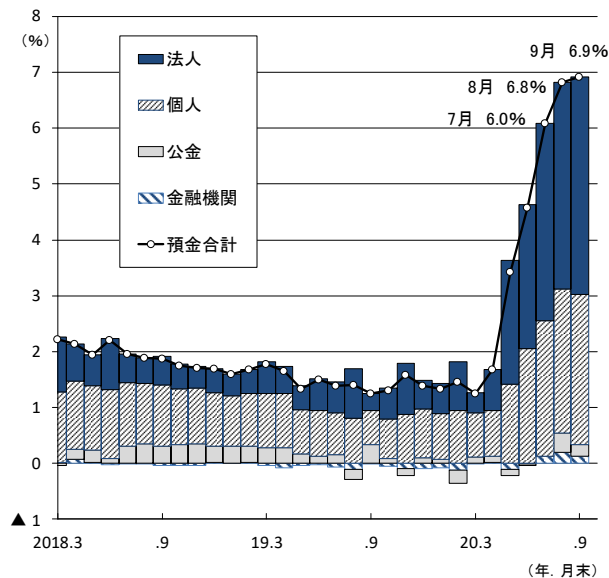
(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 預金者別の伸び率(前年同月比)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表4) 預金者別の寄与度(前年同月比)



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

### 3. 資金繰り支援は一巡

貸出金・預金とも残高の前年同月末比伸び率は、8、9月には上昇幅が鈍化している。

フローベースである月中の新規貸出実行額をみても、6月をピークに、7、8月までは前年同月を大きく上回っていた(図表5)。9月の企業向け新規貸出実行額は、20年2月以来7か月ぶりに前年同月比でマイナスとなっており、新規貸出実行額は落ち着いてきている。

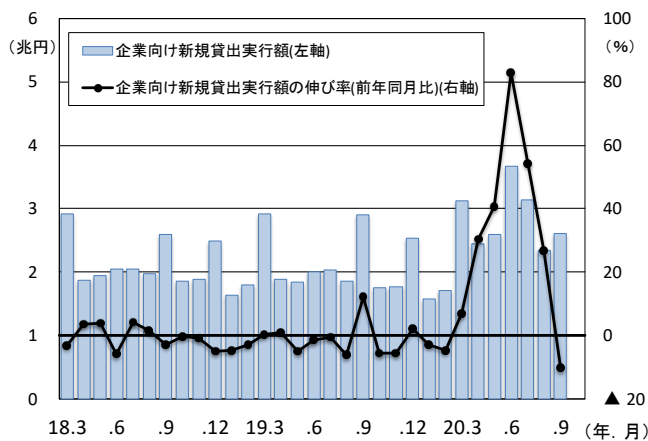
10月21日に日本銀行が公表した四半期毎の「主要銀行貸出動向アンケート調査」の資金需要判断D.I.をみても、企業向け、中小企業向けとも7月調査ではリーマン・ショック時を上回っていたが、10月調査では大きく低下している(図表6)。今後3か月の見通し(企業向け)は9となっており、感染拡大前の資金需要判断D.I.の水準近くにまで低下している。

いまだ感染収束が見通せない状況ではあるが、現時点で多くの信用金庫の資金繰り支援は一巡したといえる。今後は、ウィズコロナの経営環境において、取引先中小企業の売上、収益確保のための販路開拓やコスト削減などの本業支援、さらには事業の再構築への支援などが求められてくるだろう。

以上

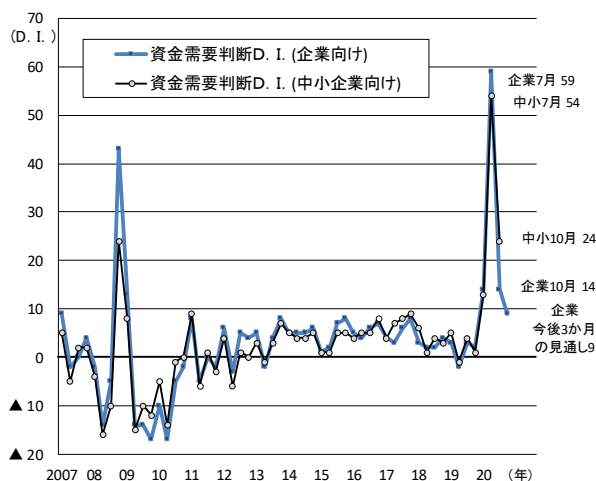
※「信用金庫地区別預金・貸出金(残高)」、「信用金庫 預金、現金、貸出金残高(地区・都道府県別)」を信用金庫に還元しております。併せてご活用ください。

(図表5) 企業向け新規貸出実行額の推移



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表6) 資金需要判断D.I.の推移



(備考) 日本銀行資料より、信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。